

夢のかけはし

牛の健康のために 技術を磨く。



平成3年生まれ。海道町在住。父も削蹄師であり、親子2代の削蹄師。大学卒業後、食肉の製造・加工会社への勤務を経て、今年4月から削蹄の仕事始める。子どもの頃から動物が好きで、5匹の愛犬と暮らす。(28歳)

父や祖父が代々飼っていることもあり、牛は子どもときから身近でかわいい存在でした。削蹄師は、牛の蹄を削る職業です。蹄がきれいに整っていないと体のバランスが崩れてしまい、足に負担がかかります。すると、牛は長時間立つことを嫌がり、発情や肉質に影響が出てしまうため、削蹄は非常に重要な作業です。

削蹄をする際は、牛が暴れてけがをしないように「削蹄枠」という鉄製の枠に牛を固定し、専用の鎌を使って丁寧に削っていくのですが、難しいのが蹄をどこまで削るか見定めること。蹄の形は牛ごとに異なるので、同じ形の蹄はありません。それぞれ蹄に最適な形を見つけてあげることが、より難しく経験を必要とするところ。削蹄には明確なゴールがありません。奥が深く、経験を重ねることに面白いと感じますね。

削蹄師

大窪 翔太郎さん

牛や、父や祖父が飼っている牛を相手に月に15日ほど削蹄をします。関わった牛にはやはり愛着がわきます。少しでも高値で出荷されたいですね。父は削蹄の技術を競い合う「削蹄競技大会」の全国大会に県の代表として何度も出場しています。良い手本となる父が身近にいます。で、学べることは全て学びたいです。鎌の向きを変えながら利き手で削蹄を行う一般的な方法ではなく、両手を使って削蹄を行っているのも父の影響かもしれません。これからの目標は、「削蹄競技大会」で全国1位を取ること。いつか必ず父を超えたいと思っています。



【右】削蹄枠に牛が入っている様子。ロープやフックなどを使い、牛を固定し、片足ずつ持ち上げる。



【左】蹄の形を見ながら、左右対称になるように蹄を削っていく。